

24	名称	サクラ	生育標高限界	生育環境について	花、実、紅葉、幹など
			1200~1500m程度	日当たりが良く、風通しが良い場所を好む。	4~5月、淡紅色や淡紅白色の花を咲かせる。
	樹高	5m~20m	特徴、由来など	語源が木花咲耶姫という説もあるサクラだが、それぞれに花言葉がある。たとえばソメイヨシノは「高貴・純潔・優れた美人」、八重桜なら「豊かな教養・善良な教育・しとやか」などと、女性的な言葉が目立つ。	
	科名	バラ科			



ソメイヨシノ



ウワミズサクラ



ヤエザクラ



ミヤマザクラ



オオヤマザクラ

25	名称	サルスベリ	生育標高限界	生育環境について	花、実、紅葉、幹など
			1000m程度	日当たりと水はけの良い場所を好む。	7～9月に開花し、様々な色の花が50日間程度次々と咲き続ける。
樹高	5m～20m		特徴、由来など	つるつるしている幹肌が特徴で、和名の由来にもなっている。 葉などに白い粉が付いたような「うどんこ病」が頻繁に発生するため、日当たり、風通しを良くして発生を抑える。	
科名	ミソハギ科				



26	名称	サンシュユ	生育標高限界	生育環境について	花、実、紅葉、幹など
			1200m程度	日当たり、水はけの良い保湿性のある肥沃な土地を好む。	4月頃に葉に先立って枝一面に黄色い小さな花を密に開く。
樹高	5m～20m		特徴、由来など	「サンシュユ」とは、中国名の「山茱萸」を音読みしたもの。 4～5mmの黄色い小さな花を、密に咲かせることから別名ハルコガネとも呼ばれている。	
科名	ミズキ科				



27	名称	シナノキ	生育標高限界	生育環境について	花、実、紅葉、幹など
			1200m程度	日当たりが良く、水はけの良い場所を好む。	7～8月に葉の付け根から出た長い柄の先に集まって花が咲く。
樹高	5m～20m		特徴、由来など	花の香りが良く、良質のはちみつが採れる。 また樹皮は帯褐灰色で縦に裂け、樹皮の繊維は布や製紙の原料にする。 ヨーロッパではこの属の樹木が、重要な並木用樹といわれているようだ。	
科名	シナノキ科				



28	名称	シャクナゲ	生育標高限界	生育環境について	花、実、紅葉、幹など
			1600m程度	酸性土壌を好み、寒さに強く、暑さを嫌うので、西日は避けるようにする。	5月頃にツツジ属の中で最も豪華な花を付け、12cm程になる。
樹高	5m以下		特徴、由来など	酸性の土質を好むが、水はけの悪い場所は嫌う。 夏の暑さを嫌うため、半日陰か建物の東側など、午後の日差しが避けられるところが良い。	
科名	ツツジ科				



日本シャクナゲ

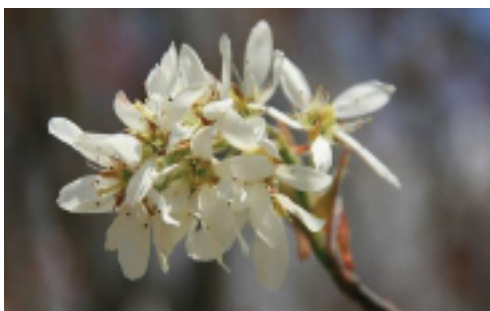


西洋シャクナゲ

29	名称	シャラ	生育標高限界	生育環境について	花、実、紅葉、幹など
			1800m程度	日当たり、水はけが良い場所を好む。	7～8月頃に5～7cmの白い花が咲く。
樹高	5m～20m	特徴、由来など			
科名	ツバキ科				



30	名称	ジュンベリー	生育標高限界	生育環境について	花、実、紅葉、幹など
			1400m程度	日当たりが良く肥沃な土壌を好む。	5月頃に花が咲き、8月頃に実を付ける。
樹高	5m～20m	特徴、由来など			
科名	バラ科				



31	名称	シラカシ	生育標高限界	生育環境について	花、実、紅葉、幹など
			800m程度	日光は当たっても当たらなくても育ち、やや湿気のある肥沃な土壌を好む。	4～5月に雄花序を垂らし、秋には堅果であるどんぐりが熟す。
樹高	20m以上		特徴、由来など	樹皮はやや緑がかった黒色で裂け目はない。寒さにも潮風にも強く、庭木や防風林として良く利用されている。数あるどんぐりの木の中でも、茶色の実に丸い帽子を被ったこれぞどんぐりといった風体の実を付ける。	
科名	ブナ科				



32	名称	シラカンバ (シラカバ)	生育標高限界	生育環境について	花、実、紅葉、幹など
			1500m程度	日当たりが良く、肥沃で通気性、水はけの 良い土壌を好む。	白い幹が特徴で、日本のシラカバは幹が太ならないと白くならない。
樹高		20m以上	特徴、由来など	長野県周辺では、シラカバの皮をお盆の迎え火送り火で焚く風習がある。風に弱く、剪定を行うと自然形が失われてしまうので避けた方がよい。また暖かい地方では短命である。	
科名		カバノキ科			



33	名称	ソヨゴ	生育標高限界	生育環境について	花、実、紅葉、幹など
			1000m程度	土質は選ばないが、肥沃な土壌を好む。	10～11月に果実が赤く熟す。
樹高		5m～20m	特徴、由来など	諏訪地方ではサカキに代わり神事に使うこともある。風に葉がそよそよと音を立ててそよぐことから、この名が付いたといわれている。イチヨウと同様雄は実が成らない。	
科名		モチノキ科			



34	名称	タニウツギ	生育標高限界	生育環境について	花、実、紅葉、幹など
			1400m程度	日当たりが良いところから半日陰まで、水はけが良ければ土質は選ばない。	6～7月頃にウツギの中でも特に上品で美しい花を付ける。
樹高		5m以下	特徴、由来など	普通、枝は斜め上に伸びるが、高低差のある場所などでは環境に応じて成長する。昔から人々と深い関わりがあり、100を超える地方名がある。飢饉の時には、若葉を食用にした。	
科名		ユキノシタ科			



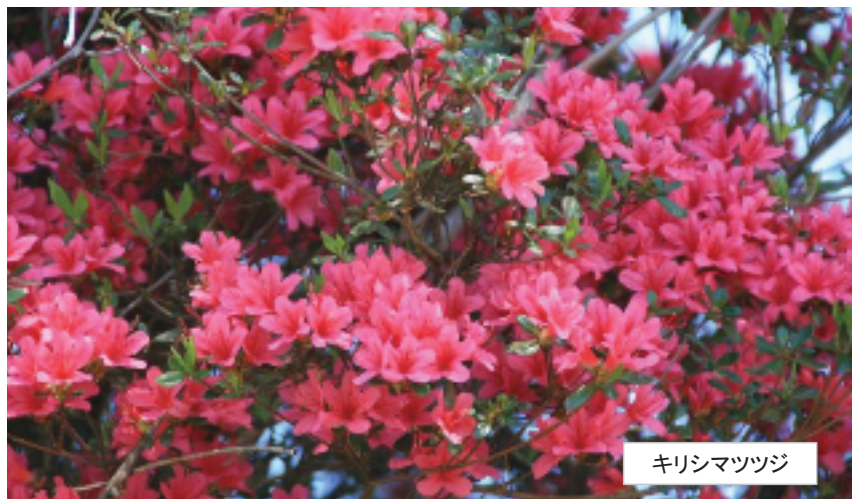
35	名称	ツツジ	生育標高限界	生育環境について	花、実、紅葉、幹など
			1000~1800m程度	半日陰で直射日光を避けた場所を好む。	5~6月頃、サツキは1ヵ月程遅れて6~7月頃花を咲かせる。
	樹高	5m以下	特徴、由来など	サツキとツツジは非常に似ているが、ツツジに比べてサツキの方が大きさが小さい。また、花を1ヵ月近く遅く(旧暦の皐月頃)咲かせるため、区別が付けられる。	
	科名	ツツジ科			



サツキ



レンゲツツジ



クリシマツツジ



ヤマツツジ



ミツバツツジ

36	名称	トサミズキ	生育標高限界	生育環境について	花、実、紅葉、幹など
			1200m程度	日当たりが良い場所を好むが、乾燥は苦手です。湿り気のある土壌を好む。	3～4月、葉に先立って穂状の淡黄色の花を7個程咲かせる。
	樹高	5m以下	特徴、由来など	「トサミズキ(土佐水木)」は、名の通り四国の土佐の山地に自生する。樹高は2～3m程で、枝ぶりが面白く、垂れ下がる花も美しく、早春の山を彩る。	
	科名	マンサク科			



37	名 称	トネリコ	生育標高限界	生育環境について	花、実、紅葉、幹など
			1200m程度	明るい日陰でも育つが、明るい方が良く育つ。	5～6月、枝の先や葉腋から黄色い雄花の穂が垂れ下がって咲く。
樹高		5m～20m	特徴、由来など	湿ったところに強い。ため水田の畔に植えられ、イネかけとして使われる。 0℃程度の寒さにあたると葉が落ちてしまうため、この地域では屋内で育てるのが無難。	
科名		モクセイ科			

